



グローバルに働くとは？ ～ひとつの事例として～

◇ 今回は、S.Tさん（一橋大学大学院・コンサルティング会社勤務）のレポートです！

2010年3月卒業生 S.T

一橋大学 経済学部 経済学科

一橋大学 大学院 経済学研究科

経済史・地域経済専攻

自己紹介

はじめまして。私は、社会人3年目になる卒業生です。大学/大学院（修士）では、経済学（特に経済史）を勉強し、現在はコンサルティング会社（主に発展途上国の開発援助関連）で働いています。社会の授業でODAという言葉は聞いたことがあると思いますが、ODAがどのように実施されているか具体的なイメージを持っている人は少ないと思います。ODA=JICAというのが一般的な理解でしょうか。私の業界（開発コンサルタント）は、JICAが形成する発展途上国に対する開発援助プロジェクトを実施しています。そのため、1年の半分近くを海外出張しています。

はじめに

皆さんの多くが就職ではなく、大学（短大・専門学校）進学を目指し、高校生活を送られている事と思います。まだまだ働き始めたばかりですが、皆さんが「何のために大学へ行くのか」、「なぜ進学するのか」を今一度考えるきっかけになれば幸いです。

海外（途上国）で働くことがどういうことなのか、自分の経験が仕事のどう役立っているかを皆さんにお伝えできればと思います。

海外で働くためには英語が必須？

現在、南アジアに位置するバングラデシュのあるプロジェクトに従事しています。ベンガル語を公用語とする人口のほとんどがイスラム教を信仰する国です。

現地へは、2～4週間程度の出張ベース（年6回程度の頻度）で滞在しています。プロジェクトメンバーの中で最若手という事もあり、チーム内での役割は主にプロジェクト内での調整業務が主な仕事です。具体的にはチームメンバーが渡航するときの航空券やホテルの手配、VISAの取得、現地で移動するための車両の手配、現地で傭う秘書などとの契約管理、プロジェクトの資金管理など多岐に及びます。現在はまだプロジェクトを円滑に進めるための裏方の仕事が多いです。まだまだ駆け出



修士論文作成で訪れたウガンダの首都カンパラ

しのため、専門性を高めるためにチーム内の先輩の業務を手伝いながら勉強しています。

このプロジェクトで一緒に仕事をする主な相手は、現地政府機関の一つであるため、職員の多くが英語を使え、コミュニケーション言語は基本的に英語です。しかし、母国語が英語でないため、英語が苦手な職員も多くいます。プロジェクトとして現地で雇用している秘書もあまり英語が得意でなく、難しい単語や文章で伝えようとすると伝わらないことが多々あります。

言葉の問題だけでなく、日本とは文化や習慣が違うため、秘書に買い物を頼むなど日常のやり取りでも日本にいる時と同じような伝え方では伝わらないことがあります。そのため、分かりやすく筋道立てて自分の要求を伝えることが必要です。

(それでも伝わらず結局身振り手振りや図示する時もありますが...笑)

分かりやすい指示出しをするために、大学受験や大学での勉強を通じて鍛えられた論理的に物事を考える習慣が非常に役に立っています。高校時代、懸命に勉強したことが(間接的ではあれ)こんなことにも活かされているのかと驚いています。海外で仕事をするようになって、母国語(日本語)できちんと教育を受け、それが身につけていることの重要性を痛感しています。高校時代は文系だったこともあり、特に理科や数学が専門職でないなら何の役に立つのかよく分かりませんでした。これらの教科を通じて養われる論理的なものごとを考える力が今の仕事に役立っていると感じることが多いです。これは、社内でのコミュニケーションをとるうえでも不可欠なことだと思います。



ビルとスラムの共存@ダッカ、バングラデシュ

確かに、高校・大学時代に勉強する知識それ自体を実際に働き始めた後には使わない人が多いかもしれませんが、それを勉強する過程で身につく継続的に何かを積み重ねる経験や思考方法、ものの見方は学生を卒業した後も役に立つと思います。

おわりに

実際に働き始めるまでは、海外で働くために重要なのは語学力だと考えていました。もちろん、語学力は大切ですが、それと同じ位、語学力以外の力(専門性やコミュニケーション能力など)も不可欠だと痛感しました。高校・大学を通じて積極的に様々なことに挑戦して、価値観の幅を増やしてほしいと思います。結果として回り道になるかもしれませんが、様々な経験をすることで、(今はなくても)やりたいことが見えてきたり、やりたいことが出来た時に役に立ったりするのではないかと思います。

私の働く業界や会社(私自身? 笑)のことをもっと知りたい方は、ぜひ連絡をください。皆さんの世界を広げるお手伝いをする機会があるとしたら、それは望外の喜びです。連絡先は進路指導室の先生に

お伝えしてあります。このような機会を頂き、私自身にとっても過去を振り返るいい機会となりました。
ありがとうございました。



卒業旅行で訪れたモロッコ